

羊蹄山に呼ばれて協力隊に



松本 竜太 (まつもと りゅうた)

北海道札幌市出身。大学卒業後は食品会社で営業・品質管理などの部門で食品業界を約11年経験し、2020年5月にニセコ町へ移住しました。ニセコ町地域おこし協力隊として株式会社ニセコリゾート観光協会の旅行グループへ配属となりました。

【不安の中ニセコ町へ】

私は北海道で生まれ育ち、大学卒業後は東京・札幌の食品会社にてサラリーマンとして働いていました。結婚後、妻とは「いつか羊蹄山の周辺に住みたい!」「自然豊かな場所で子育てがしたい」と話しておりました。そんな時にニセコ町地域おこし協力隊の募集を見つけ、家族で移住を決意しました。

ニセコへはスノーボードで何度も来たことがあったので何となく知っているつもりでしたが、調べていくと「ニセコ」=「ニセコ町」ではなかった事実を知り驚きました。一般的に「ニセコ」と呼ばれているのは、ニセコ町と倶知安町と蘭越町にまたがる「ニセコアンヌプリ」の山周辺のエリアを指します。じつは、私もニセコに行って来た!と言いながら倶知安町のスキー場に行っていたという訳です。

さらにニセコ町について調べていくと、サステイナブルなまちづくりを進めていて、住民が積極的にまちづくりに参加する町であると知りました。

私は住んでいる地域の「まちづくり」について意識して考えたこともなかったので、若干の不安がありました。

【まちづくりの取り組みを発信する側へ】

ニセコ町地域おこし協力隊では、地域イベントへの協力や独自イベントの企画をする「全体活動」、配属先にて業務を行う「配属先活動」、自身の為の「自立活動」が活動の3本柱となっています。

私の配属先は株式会社ニセコリゾート観光協会で、全国で初めて株式会社化した観光協会です。旅行グループという部署に所属し、主に旅行に関わる業務全般を行います。着任後すぐ地元中学校の修学旅行に同行し、教育旅行の添乗業務について学びました。翌年は資格を取得し、添乗員として修学旅行の添乗業務を行ったことは、とてもチャレンジングな経験でした。その他に、町外の学生団体の学習プログラムに力をいれており、旅行マネージャーの下で携わらせていただきました。

SDG s 未来都市であるニセコ町の取り組みや、ニセコ町で実際に事業を営んでいらっしゃる事業者様を訪問する「実地見学プログラム」や、ニセコの「面白い」方にお話を聞く「キャリアデザインプログラム」、ニセコ町市街地で行う「ニセコSDG s ロゲイン」などのプログラムがあります。

旅行会社や学校から要望を伺い、町内の事業者様との調整、希望があれば事前オンライン学習を行い、当日のスケジュール・人員手配・ワークショップのファシリテート等、全体旅程の進行をフォローしていきます。

この業務を通じての気づきは、「ニセコ町はSDGsのゴールを目指しているのではない」という点です。

移住前は、「サステイナブルなまちづくりをしている町」程度の認識でしたが、さまざまな事業者様や町民の方々とお話をすると、ニセコ町がずっと前から目指し、今までの実践してきた暮らしや仕事自体がまさ



学生受入れのプレゼンテーションに回答する様子

に持続可能なまちづくりであり、後から出てきたSDGsの考え方と親和性があったため取り入れたということを理解しました。学生向けにプログラムを作っている自分自身が一番勉強になっていますし、移住前は、「まちづくり」についての認識や知識もあいまいだった私が、ニセコ町のまちづくりについての学習を提供する側になるとは想像もしていませんでした。

着任当時の2020年度は、年間4校程度の受入れ実績でしたが、2021年度で29校3,400名程度、2022年度は48校7,000名以上の道内外さまざまな地域の学生に來町いただき、観光協会の学習プログラムを体験していただく予定です。希望する学校が増え、ニセコ町の取り組みに注目してくださるのはこの業務に携わっている一人として光栄ですし、学生の為にニセコ町でしか聞けないこと、体験できないことを提供したい、という強い思いで取り組んでいます。

一方で、このプログラムで受入れをお願いしている事業者様の多くは観光関連施設ではありません。本業もあり、忙しい中でも「意義」に賛同し協力していただいているのですが、それだけでは持続可能ではないとも感じています。

今後は、プログラムの更なる磨き上げで体験いただく皆様の実感価値を高めつつ、価値に見合う体験料金をいただくことで、地域事業者様への経済的な循環・バランスをとり、持続可能な事業になるよう努力していくことが次のステップかと感じています。

【プログラミング講座「ピリカスクプ」を企画】

2022年4月ニセコ町にて官民連携し、ニセコ町ワーケーション推進協議会を立ち上げました。ワーケーションとは「ワーク」と「バケーション」をあわせた造語で、一般的には観光地で遊びながら仕事することを指している言葉です。

ニセコエリアは、観光地として豊かな自然とさまざまなタイプの宿泊施設や観光素材があり、ワーケー

ションをするにはピッタリのエリアです。

協議会では合宿研修型のワーケーションのモデルとして、「プログラミング講座ピリカスクプ」を企画・実施しました。「ピリカスクプ」はアイヌ語で、「素晴らしい生活・成長」という意味があります。“この企画を通して成長し自分の思い描く生活を手に入れてほしい！”という思いでこの名前をつけました。

約100日間でプログラミングスキルの習得を目指し、オンライン講座は夜の時間帯とし、ターゲットの社会人に参加しやすい形としました。

2022年5月から募集を行い、全国から11名の参加者が集まりました。週1回のオンライン講座は最初こそ戸惑いがありましたが、回を重ねるごとに徐々にペースを掴んでいく様子でした。

9月のニセコ合宿で、初めて参加者同士が顔を合わせたのですが、すぐに打ち解けて、合宿最終日には涙を流す参加者もあり、運営サイドとして大きな感動がありました。

オンライン講座終了後は、学んだ技術でオリジナルWEBアプリを製作する自主制作期間を設け、11月に製作発表会を行い、全行程が終了となりました。

最初は、全くの未経験からアプリを作ることができるのか不安でしたが、講師陣・運営陣、手伝ってくれた地域おこし協力隊メンバーの協力で、素晴らしい企画となりました。関わってくれたメンバー全員に本当に感謝しております。

現在、次年度開催に向け企画を練っております。ご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非、協議会へご連絡ください。今後もニセコ町に根ざした活動となるよう取り組みを続けてまいります。



<https://pirka-sukup.com/>



ピリカスクプ講座（ニセコ町役場会場）